

学校教育目標	よく学び 心ゆたかに たくましく
目指す学校像	わくわく・いきいき・どきどき、「みんなの瞳が光ってる」学校
重点目標	1 あいさつがいっぱい、笑顔があふれる学校 2 主体的に学び合い、誰もが成長できる学校 3 地域の力で、子どもがすくすくと育つ学校 4 安全・安心と美しい環境で、心が潤う学校 5 指導力の向上を目指して、学び続ける学校

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達や心のサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

年度		学 校 自 己 評 価			年度評価		学校運営協議会による評価
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	(現状) ○「自分の考えをもち、生き生きと学び合う児童の育成」をテーマに校内研修や授業実践を行い、授業力を向上させ、ICT活用により授業の質を高めている。 ○学校評価アンケート児童と保護者「授業に関する項目」で肯定的な回答が80%以上だった。 ○「学びの指標」アンケート「ICTの活用」が77%だった。 ○STEAMSTIME実施後のアンケートでは「関心が高まった」と回答した児童が93%以上となった。 (課題) ○全学年を通し、より効果的なICT機器の活用が課題である。	・指導方法の工夫と主体的な学びによる確かな学力の向上 ・主体的に学び合い、誰もが成長できる学校	①国語、算数を中心に、朝学習に活用を図る時間を教育課程として組み込み、スタディサプリ、ドリルパークなどで苦手な分野に取り組む。 ②学校課題研修において、エバンジェリストを中心に、全ての教員がICT活用について学ぶ研修を行い、授業実践に生かす。	①国語、算数について、全児童に対して学習の取組状況を把握し、目標をもって学習できるようにできたか。 ②調査結果の分析結果や学力向上カウンセリング研修を踏まえ、授業改善の視点、手立てを共有できたか。また、学校評価にて、関連する項目の肯定的な回答の割合が80%以上となったか。	①ルーブリックを取り入れ、意欲的に学習を行えるよう支援した。 ②学力向上カウンセリング研修を実施し、現状把握とともに、授業改善に役立てた。また、学校評価「よく学ぶ子」の項目において、児童、保護者、教職員共に肯定的な回答が児童「忘れ物なし77%」以外、80%以上となった。	A	①ルーブリックのよりよい活用を図るとともに、ICTを効果的に活用した学習活動を設定する。 ②全教職員で学力向上カウンセリング研修を実施し指導に生かす。また、忘れ物については、学級指導とともに生徒指導でも意識向上の取り組みを行う。
2	(現状) ○チーム善前に対応する学校を構築し、発達支持的生徒指導を実践する組織づくりを行っている。 ○学校評価「心ゆたかな子」に係る項目は、5つの項目すべてで職員、児童、保護者の肯定的な回答が70%以上であった。 ○学校評価「たくましく」に係る項目は、5つの項目すべてで職員、児童、保護者の肯定的な回答が80%以上であった。 (課題) ○学校評価の児童「進んで自分の意見を言う」の肯定的な回答が75%で自信が持てない児童が25%いる。	・児童一人ひとりへの細やかな生徒指導、教育支援・相談に向けた校内体制の充実 ・児童の自己肯定感の向上	①情報端末(Forms)を活用した児童アンケートの実施等、一人ひとりの状況を継続的に把握する。 ②生徒指導、教育相談に係る校内委員会で児童の情報交換を行い、児童の状況を把握し、Solaる一むの活用等、組織的に支援相談を行う。	①学校評価「心ゆたかな子」に係る項目で、児童、保護者、教職員の肯定的な回答の割合71%以上となったか。 ②学校評価「たくましく」に係る項目で5つの項目すべてで職員、児童、保護者の肯定的な回答が教81%以上となったか。	①学校評価「心ゆたかな子」の項目は、児童、保護者、教職員の肯定的な回答が71%以上であった。 ②学校評価「たくましい子」の項目は、5つの項目すべてで肯定的な回答が児童、保護者、教職員81%以上であった。	A	①児童が「心豊かに生活している」と判断している現状を受け止め引き続き生徒指導、教育相談体制の充実を図る。 ②組織的な生徒指導、教育相談対応を心がけ、教職員の共通理解を図り、児童、保護者に寄り添った対応に努める。
3	(現状) ○家庭・地域から信頼され、家庭・地域とともに歩む学校づくりを行っている。 ○学校運営協議会や各行事を通じて教育活動の現状を報告し、課題への対応策等話し合い、改善を図っている。 ○学校評価「家庭・地域との連携」について、3つの項目すべてで教職員、保護者、学校運営協議会委員の3者で肯定的な回答が70%以上であった。 ○学校教育目標達成度アンケートにおいて「地域との連携」の肯定的な回答の割合が80%以上であった。 (課題) ○地域の見守り防犯ボランティアの方々の高齢化に伴う参加人数の減少が課題である。	・地域の方で、子どもがすくすくと育つ学校 ・目指す児童の姿を共有するためのICT活用、教育活動公開	①2学期に教職員、保護者、児童、学校運営協議会委員を対象とした学校評価を実施し、コミュニティスクールの充実を図る。 ②防犯ボランティアの募集等、具体的な方策を定め、学校とSSN、地域が協働した取組を始める。	①学校評価に関するアンケートで「家庭・地域との連携」について保護者、地域の肯定的な回答の割合が70%以上となったか。 ②保護者、地域の見守りボランティアの参加人数が増加したか。	①学校評価「家庭・地域との連携」について、肯定的な回答が全項目で保護者、教職員80%以上であった。 ②保護者、地域の見守りボランティアの参加人数が26人から76人へ大幅に増加した。	A	①PTAによるボランティアが充実し、家庭との連携が図れた。次年度も取組を継続する。 ②学校運営協議会の熟議を通してまとめた意見の具現化を図り、地域、保護者との連携を強化する。
4	(現状) ○校内の環境整備、緑化・美化活動を推進し、美しい学校づくりをすすめている。 ○学校評価「安全に気を付けて生活できた」の児童の肯定的な回答が、93%、「安全な環境を整えている」の保護者87%地域90%の肯定的な回答であった。 ○施設・設備の不具合が原因のけが0件、救急車要請1件、医療機関受診47件であった。 (課題) ○安全な廊下歩行への意識が低い等、自分で考え安全な行動をとることができない児童が多いことが課題である。	・安全・安心な環境で、心が潤う学校 ・美しい環境で心が潤う学校	①保健委員会活動を中心に校内におけるけがの発生場所、件数、原因などを分析し、児童と結果を共有し対策を考え実行する。 ②道徳等の学習や、毎月の善前つ子朝会(生徒指導)、不審者対応訓練、避難訓練等を通して安全な行動への理解を深め、行動するよう指導する。	①学校評価に係る児童アンケート「安全に気を付けて生活することができた」保護者「安全な環境を整えている」で肯定的に回答する割合が80%以上となったか。 ②保健委員会の活動等を通して、児童が安全な生活の実現を意識し、けがの件数が減少しているか。	①学校評価「安全に気を付けて生活できた」の児童の肯定的な回答86%。「安全な環境を整えている」の保護者の肯定的な回答は87%だった。 ②けがマップの作成等を通して安全な生活への意識が高まった。施設設備の不具合が原因のけが0件、救急車要請0件、医療機関受診28件(昨年度-19件)だった。	A	①アンケート結果から児童は安全な生活を意識できているが、引き続き適切な環境整備と指導を継続する。 ②医療機関を受診したけがは軽微なものが多い。接触等によるものが多いが、体幹の弱さから起きたけがも目立つ。体育の学習や、委員会活動を通じた体力向上の取組の検討を行う。
5	(現状) ○教職員一人ひとりが、well-Beingを実現できる職場環境を整えている。 ○学校評価アンケート児童と保護者「授業に関する項目」で肯定的な回答が80%以上だった。 ○学校教育目標達成度アンケートにおいて「校内研修等の体制が整備され、教職員の共通理解のもとに適切に実施・運営されているか」の肯定的な回答の割合が94%であった。 (課題) ○多くの行事、会議等がある中、学校課題研修の回数が27回であり、内容を精選して行う必要がある。 ○教職員間で、研修会への参加について意欲の差がある。	・指導力の向上を目指して学び続ける学校 ・指導力の向上を目指して学び続ける教職員	①毎週木曜日の研修やブロック1回の研究授業を通して研究を推進する。 ②一人ひとりの教員が年間を通して取り組む授業改善の目標を、自己評価面談時に設定し、目標に向けた授業を年間1回以上公開する。	①全ての教員授業改善策に取り組み、学校評価アンケート「授業に関する項目」で80%以上となったか。 ②「学びの指標」において、関連する項目の肯定的な回答の割合が80%以上となったか。	①組織運営状況アンケート「授業に関する項目」において肯定的な回答が80%以上だった。(90%以上6項目) ②「学びの指標」において、「主体的:80%」「探求的:73%」「基礎:83%」となった。	A	①学校課題研修は研究協議会を3回実施し、研修の充実を図った。次年度への円滑な接続を図る。 ②ICT機器を活用した主体的、協働的な学びについて研修を進め、「探究的」な学びについて更なる取組を行う。
			①一人ひとりの教員が年間を通して取り組む自己研修の目標を自己評価面談時に設定し、取り組みを促す。	①組織運営状況アンケートにおいて「校内研修等の体制が整備され、教職員の共通理解のもとに適切に実施・運営されているか」で95%以上となったか。	①組織運営状況アンケートにおいて「校内研修等の体制が整備され、教職員の共通理解のもとに適切に実施・運営されているか」で96%となった。	A	①校外での研修会参加とともに、校内でのICTに関する自主研修の開催と参加を促し、主体的、協働的な学びについての指導力向上を図る。

学校運営協議会による評価
 実施日令和8年2月2日
 学校運営協議会からの意見・要望・評価等

- ・外国籍の児童への指導もきちんとできている。
- ・授業中、子どもたちが生き生きしている。
- ・児童は勉強も運動、遊びに一生懸命である。
- ・落ち着いて授業を受けている。配慮を要する児童の家庭との連携が必要。
- ・自己肯定感が低い児童には、クラスの雰囲気作りが大切である。
- ・教育相談は、相談したくなるような工夫、ケアが必要である。
- ・自分の意見を伝えられない児童には、教員の後押しが必要である。
- ・見守りボランティアは高齢化が進んでおり、下の世代に引き継ぐ必要がある。学校に関わるハードルを下げる取組を工夫するとよい。例えば、行事の際の学校公開を増やす。地域の行事に学校を開放する等するとよい。
- ・学校運営協議会の資料を事前に配布したのは、熟議を深めるために良かった。
- ・けがマップ作成の取組みは安全な生活への意識を高めるために良い取組みである。
- ・施設設備の不具合が原因のけが0件なのは良い。
- ・けがをってしまう原因には、体力のなさがあると思うので、体力向上の取組を充実させるとよい。
- ・美化活動は学校だけではなく、今年度同様、PTA地域と連携していきるとよい。
- ・授業改善については、否定的な10パーセントの意見を生かして改善していく必要がある。
- ・タブレットを効果的に使い、紙とデジタルの良いところを生かした学習が望ましい。

